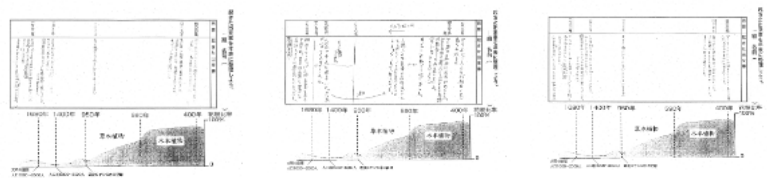


イースター島にはなぜ森林がないのか（授業後ふりかえり）

目標

- (1) イースター島に森林がなくなった原因と結果との関係、その結果と筆者の主張との関係について理解することができる。
- (2) 花粉分析の結果とイースター島で起こったこととを結びつけ、筆者の論の進め方について考えることができる。
- (3) 筆者の論の進め方について事実を基に考えようとしている。

第二次



◎起きた出来事（事実）を年表に表し、時系列で整理することで、内容を的確に捉えていた。

△ワークシートに花粉分析の結果を載せたが、果たして読みの深まりにつながったのか疑問に残った。

ポイント
筆者の結論と関係する事例をきっちりと押さえることが第三次の学習につながる。

成果

筆者の考える原因と結論の関係を捉え、論の進め方の工夫について考えることで、評価的に読むことができた。

6 単元の指導計画（全7時間）			
時	学習活動	指導上の留意点	評価規準・評価方法等
1	○学習課題をつかみ、学習の見通しを立てる。 ・イースター島について知る。 ・ペアで教科書を読み、わからない漢字の読み、意味、気になるところの3点に分ける。	・単元の目標を明確にもつことができるようにする。	
2	○題名に対する答えを見つける。 ・ペアで教科書を読み、わからない漢字の読み、意味、気になるところを学級全体で共有する。 ・序論、本論、結論に分ける。	・題名から筆者の伝えたいことを考え、答えを探しながらペアで教科書を読む。	
3	○イースター島で起きたこと（事実）を時系列で整理する。	・ペア読みし、イースター島で起きたこと（事実）を時系列で整理する。 ・できあがった年表と花粉分析の結果を比較する。	【思考・判断・表現】 発言・ワークシート ○花粉分析の結果とイースター島で起きたことを結びつけ、筆者の論の進め方について考えているかの確認
4	○イースター島から森林がなくなった原因を読み取る。	・キーワードや接続詞に着目し、原因を読み取る。 ・人間による森林破壊（農地、丸木舟、宗教的・文化的な目的）とラットによる森林の再生阻害という2つの理由であることを読み取り、筆者がはっきりと事実だと示しているのはどちらか文末の表現を基に考える。	
5	○筆者の考える原因と結論の関係を図える。 ・筆者の考えと具体例を関連づけて読み取る。	・「ひとたび自然の利用方法を誤り、健全な生態系を傷つけてしまえば、」「文化も人の心もあれ果てしまひ」とは、具体的にほんたにんことか、それぞれ文章を基に考える。	【知識・技能】 ノート ○イースター島に森林がなくなった原因と結果との関係、その結果と筆者の主張との関係について理解しているかの確認
6	○筆者の論の進め方の工夫について、自分の考えを書く。	・筆者の主張のために、イースター島の例を使ったことについてどう思うか、理由とともに考える。	【思考・判断・表現】 発言・ロイロノート ○文章と花粉分析の結果を結びつけ、筆者の論の進め方について考えているかの確認
7 （まとめ）	○筆者の主張に対して必要な情報について考える。	・意見が出にくい場合は、発問の意図がわかるように支援する。	

※「主体的に学習に取り組む態度」については単元を通して評価する。

課題

児童によって評価的な読みの深さに大きな差があった。児童の考えの違いに焦点を当て、意見交流の時間をとるべきだった。

第三次

わかった

ない

すごくわかった

イースター島の例がほしい

イースター島も自然破壊が起きているけれど、他の国などにも、自然破壊が起きている所があったんじゃないかなと思った。

他の例でもよかったです

他の例も書いてほしい

ラットや人間以外の例の理由

花粉分析の結果について

花粉分析の結果から、1800年ごろには木々の花粉が多かったけど、1600年ごろには花粉が少なくなった。これは、人間が木を切ったからかもしれない。

花粉分析の結果から、1800年ごろには木々の花粉が多かったけど、1600年ごろには花粉が少なくなった。これは、人間が木を切ったからかもしれない。

ラットの例について

ラットは人間が持ってきた動物で、人間が木を切った後、ラットが木を食べてしまったから、木が少なくなった。

ラットは人間が持ってきた動物で、人間が木を切った後、ラットが木を食べてしまったから、木が少なくなった。

農地について

人間が農地を作った後、木を切ったから、木が少なくなった。

人間が農地を作った後、木を切ったから、木が少なくなった。

結論について

花粉分析の結果から、1800年ごろには木々の花粉が多かったけど、1600年ごろには花粉が少なくなった。これは、人間が木を切ったからかもしれない。

花粉分析の結果から、1800年ごろには木々の花粉が多かったけど、1600年ごろには花粉が少なくなった。これは、人間が木を切ったからかもしれない。

◎文章をよく読み内容を的確に捉えることができていた。また表現の曖昧さにも注目し、「なぜこのように書かれているのか」を考える姿が見られた。資料のグルーピングをしたことで子どもの考えを可視化できた。

△筆者の主張のために「イースター等の例を使ったことについてどう思うか」と「他に詳しく書いてほしいことは何か」という発問は、結果的に同じことを書く児童が多かった。また筆者の意見に納得できるかを数字で表すのは、意味づけが難しいのでなくてもよいかも？

ポイント
児童から出た意見をすべて扱うのではなく、二つに絞ってそれぞれの立場で児童が考えて意見交流する時間にするより時間に余裕ができる。また発問はより明確にして、「問いの意図」と「子どもに考えさせたい方向」を絞り込むと、思考が深まりやすくなる。